

## 観光漁業への取り組み

八重山支庁農林水産振興課

### 1. 目的

近年、近海の水産資源の減少が大きな問題になってきている。県内でも比較的漁場の広い八重山地区も資源が減少しつつある。今後も漁業を続けていくためには、漁船漁業以外に観光漁業などにも取り組んでいく必要がある。今回、八重山漁協青壮年部から観光漁業についての学習会を行いたいと要望があったため、県内での成功事例である伊平屋漁協の「海の学校」のコーディネーターの今井氏を招いて学習会を行った。

### 2. 講師

伊平屋漁協「海の学校」 校長 今井輝光

### 3. 開催日時・場所

平成11年2月6日(土)

15:00~17:00

八重山漁協会議室

### 4. 参加者

八重山漁協青壮年部	18名
八重山漁協婦人部	1名
八重山漁協	1名
石垣市水産課	3名
竹富町経済課	1名
八重山支庁	2名

### 5. 内容

「海の学校」には基本コース7つと特別コース7つの計14コースがある。その中にはもずくの網上げ、追い込み網、イシミーバイ釣り、

イセエビ漁(男性のみ)等の漁業体験のコースに加えて、絵画・料理などのコースも設定されている。昼に漁業体験等を行い、夜は海人の体験談、三線、舞踊、海の幸の料理などを行う。体力、体調によりメニューは変えられるが、わがままは許さない(やりたくないと言う理由は認めない)と言うことであった。申し込み時に履歴書のようなものを提出してもらい、体力・能力等も調査したうえで、メニューを決めていく(できれば東京で行われる事前の学習会にも参加してもらおうとのこと)。講師は開校当時7名であったが、現在は15名まで増えている。講師は海人が主だが、他にも漁協の婦人部、漁協、地元の歌・舞踊の先生等幅広くなっている。この「海の学校」の基本料金は4泊5日で16万円程度、伊平屋・那覇・羽田の3地点の集合場所がある。

「海の学校」にこの名前が付き、順調にいくようになったのは2年前からである。現在はリピーターも増え、口コミでも広がっている。都会の人を惹きつけている理由一海の魅力として危険性というものがあると思う。海で仕事をするとすることは生と死が非常に近いところといえる。危険性の低いところに住み、危機管理能力の欠如した(決められたルールの上を歩くのになれ、選択するのになれていない)都会人にとっては、この危険性といったものが魅力になりうる。ダイビングサービスと体験漁業だけでは商売にならない。学習させることが重要である。

「海の学校」の場合、海という危険性の高い場所で行われるものであるため、責任問題が出

てくる。このため海の学校の講師（体験漁業をさせる場合）は万一の事故の際の落ち度とならないよう念のためダイビングのインストラクターの資格を取らせているが、同時に保険というものが重要になってくる。難しいけれども、保険に関しては熟知する必要がある。海の学校では独自の保険を創設して二重、三重に保険をかけているが、参加者にも任意保険への加入を勧めている。

「海の学校」の目的としては、新しい発想による漁村づくりがある。天候・気候に左右されない安定した生活を供給できる、1次産業だけでなく2次・3次産業の要素も含めた漁村づくりを行いたい。

現在の「海の学校」はハード面では充実しておらず、ソフト面でカバーしている。ハードを充実させようとするとう無理に集客しなければならないため、ソフト面が崩壊してしまう可能性がある（サービスがきちんと提供しきれない）。ハード面ではなく、ソフト面を充実させるということが重要である。観光漁業を行う上でコスト計算というものも重要になってくる。船の燃料代や講師の人件費等の計算ができないと井勘定になり経営が破綻してしまう。しかし、「海の学校」の生徒を利用することにより、海人自体も漁の戦力の確保が可能になり、経費節減に繋がる。また、これにより新規就漁者の確保にもつながると思われる。「海の学校」は安売りツアーではなく、利益を考えた値段設定を行っている。役割分担をしっかりと考えており、老人・偏屈者・よそ者（内地の人）等それぞれの役割をこなしている。また、このような観光漁業を行う場合、現場だけではなく集客力の強い場所（都会）にも本部を設置する必要がある。このように役割分担もしっかり行わないと成功しない。なお、広告はほとんどしてなく、雑誌・テレビ等の取材による宣伝を利用している。

伊平屋島の「海の学校」の開校の人数は最少で1人、最大でも15人である。今は生徒の宿

泊は島の民宿を利用しているが、今度「海の学校」の校舎を建設する予定があり、そこに宿泊も可能なようにする予定がある。先生は生徒15名に対し平均6名である。これは海人の都合により通し、半日、1日等いろいろ変わる。利益の5割は海人、5割は漁協と今井さんのものになる。海人の日当は3万円としている。悪天候時はメニューを変更して、島の遊び・芸能・生物知識等の授業を行い、客には納得してもらっている。来年度以降は漁業体験だけでなく、農業体験等にも取り組んでいく予定である。

現在、修学旅行の受け入れと大手航空会社との提携も決まっています。社会のニーズは増えてきている。大手旅行会社からの提携の依頼もあるが、規模が大きすぎて（400名以上）伊平屋島では受け入れられない。海人は「海の学校」だけで生活するわけではないし、島の景観や島民の暮らしを守る意味でも、伊平屋島での限界は年間千人程度である。大手の需要を満たすためには、石垣島や宮古島等の大きな島での取り組みが必要となる。



講師の今井輝光氏

# 「漁業に第2、3次産業も」

八重山漁協青壮年部

## 「海の学校」で学習会

### 教師は漁師 生徒は島外の人

伊平屋島の「海の学校」で、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。講師は、伊平屋島の漁師、今井輝満さん。生徒は、島外の人々。学習会は、伊平屋島の「海の学校」で、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。

海の学校は、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。講師は、伊平屋島の漁師、今井輝満さん。生徒は、島外の人々。学習会は、伊平屋島の「海の学校」で、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。



伊平屋島で取り組んでいる「海の学校」について説明する校長の今井輝満さん

この学習会は、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。

今井さんは、伊平屋島の漁師として、漁業の第2、3次産業について、島外の人々を対象に、学習会を開催した。講師は、伊平屋島の漁師、今井輝満さん。生徒は、島外の人々。学習会は、伊平屋島の「海の学校」で、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。

今井さんは、伊平屋島の漁師として、漁業の第2、3次産業について、島外の人々を対象に、学習会を開催した。講師は、伊平屋島の漁師、今井輝満さん。生徒は、島外の人々。学習会は、伊平屋島の「海の学校」で、伊平屋島の漁師が、島外の人々を対象に、漁業の第2、3次産業について、学習会を開催した。

平成11年2月18日 八重山毎日新聞